組み立て説明書

４Dボートをお買い上げありがとうございます。水もの模型の回収等に開発した専用ラジコンボートです。一日でも早く完成させて楽しんでください

・制作に必要な物

木工用ボンド
セメダインC
エポキシ系接着剤
７mmドリル
その他、塗装材料、道具、工具等

・走行までに必要なもの

３Ｃｈ以上のラジコン送受信機・・・サーボ２個
動力として５４０クラスブラシ５０Ｔクラスのブラシモーター、
あるいは同等クラスのブラシレスモーター

注意！：いわゆる飛行機用のモーターは不向きです大電流、高回転型ですと回収途中でバッテリーがなくなり「ミイラ取りがミイラになる」可能性があります。
ラジコンカーの高トルク型（ブラシモーターのターン数が４０以上）をお勧めします

スピコン（バック機能があるもの）
バッテリー（車用）

・組み立て上の注意

接着剤は木工用接着剤（水性で可）を使います。瞬間接着剤は不向きです、使用しないで下さい。瞬間接着剤は充填剤としての役割を果たさないので、防水性が悪く無なり水漏れの原因となります。

テクニカルデーター

全長：５５０mm
全幅：２２０mm
全高：１２０mm
参考全備重量：１５００ｇ

１３００－Ｂ６１０－２２０－６０

組み立てに関して

単なる箱状のボートです。図面を参考に組み立ててください。

組み立て手順

① スタンチューブ固定版を作り、スタンチューブを挟み込む
　エポキシ系接着剤使用
② ハンガーパワーユニット部分を組みモーターの配置を確認する
　注意：底板は最終段階で貼り付けます
③ 本体上面　以外を組み立てたら防水処理
④ ラダーを組む
⑤ ラダー等メカ関連の配置を確認

⑥ 上面をカバーする
⑦ 塗装および仕上げ

以上のような流れで組んでいきます。注意することはハンガーパワーユニット部分の底板を早めに接着しないことです。

防水処理

その1：全体が組みあがったら（上面プラン前が良い）塗装前に防水確認をします。まず外部から目視で接着面の隙間を埋めていきます接着部分にセメダインCを刷り込み接着剤が固まる前にサンディングし隙間を埋め行きます。サンディングした木の粉末と接着剤が混ざり合いとても有効な防水処理です。隙間の発見はボート内部から光を当てると明確に場所が確認できます。

その2：可能な限り手が入るところにセメダインCを充填します。いわゆるシリコン系の充填剤は使ってはいけません。次の工程の防水処理ができません。

水性塗料でかまいませんから内部を刷毛塗りします。塗装が乾いたらしゃぶしゃぶの塗料を流し込み水漏れ箇所の発見を行います。外部に塗料が流れ出すときはその1の作業を繰り返しおこないます。

その３：塗装が完全に乾いたらコップ1杯ほどの水を内部に流し込み再度水漏れが無いかを確認します。

後は色付け塗装で仕上げます

その他の参考資料

リリースシステムの組み立てと取り付け

任意の位置に固定します、写真左は内側、サーボの固定参考写真です。ピアノ線を上下することで作動します。ピアノ線の上下のストロークは送信機側で行います。

ダクトファンタイプのラダー

カメラの雲台を付けてみた　　スイッチをわかりやすい位置に配置

ラダーサーボの配置

サンダーボート部品リスト

ラダーホーン			１個	
ラダー軸　軸受け	４×25真鍮パイプ		１本	
ラダー軸	３×約１００mmピアノ線		１本	
ラダー軸固定板	ジュラルミ板	110㎜	1枚	
固定用ビス	タッピングネジ	3×10	2本	
ハッチフレーム固定用	タッピングネジ	２.6×６	14個	
フロントバンパー固定用	タッピングネジ	３×10㎜	８個	
リリースシステム固定用	タッピングネジ	３×10㎜	３個	計１3個
リリースシステム用	２mm木ねじ		３個	

ハッチ用	黒キャップネジ	３×15㎜	５個
ハッチ用		M3ナット	５個
プラパーツ	卵型		２個
モーター固定用ビス	ステンキャップ		2本
ドライブセット	スクリュー	３の４０	１個
	スタンチューブ		１個
	４mmシャフト		１本
	ユニバーサルジョイント		１個
補強バルサ棒	５mm棒材　３００mm		4本

企画、設計：有）ビストウ
〒３０６ー０４０５
茨城県猿島郡境町塚崎　３４３８ー１０